

松本参与との意見交換会（北信地区）

日 時：平成 29 年 2 月 24 日（金）午後 1 時から午後 2 時 40 分

場 所：長野県信濃美術館 講堂

参加者：25名

概 要

[主な意見]

【新美術館の理念、コンセプト関連】

- コレクションポリシーの「優れた山岳風景や精神文化に通じる作品を収集する」、「自然と人間」をテーマとした優れた近現代美術の作品を収集する」は、少し分かりづらい気がする。
- 今、世界美術史の視点の組み換えが起ころうとしている。ヨーロッパやアジアには日本のことを学びたい人が多い。海外の研究者との交流や海外のキュレーターとの人事交流を考えたらどうか。
- 今までの信濃美術館では人的な余裕がないため、美術の知識を学ぶことが主体であった。しかし、今は来館者が自ら発見して学び、自らの力で育むことを支援する教育の方法が出てきている。ぜひ、そのようなことができる学芸員やエドゥケーターを増やし、学校教育ではできない教育活動を提供してほしい。
- これまで信濃美術館では、今現在、アクティブに活躍している芸術家を紹介できていない。基本構想に芸術家との交流が挙がっているので、新美術館に大きな可能性を感じた。
- 県内で活躍している芸術家の企画展も開催してほしい。

【施設整備関連】

- 多くの方が美術館に訪れるようになってほしい。現在の美術館周辺は、夜は暗くて寂しい場所である。建物に映像を投影するプロジェクションマッピングができる施設を考えれば、夜も人が集まるのではないか。
- 夜は夏になると花火をやる若者もいて治安的にあまりよろしくない。人の目が届かない場所がたくさんできるのは問題である。セキュリティー面の配慮は必要。
- ショップは2か所必要なのか。スタッフの教育や人員配置が複雑になる。
- 新美術館の整備エリアには大木が何本もあるが、全部切るのはもったいない。建設に支障があるならば移植は考えられないか。または、木を活かした森の中の美

術館にして、美術に親しみがない人も来られるようにしたらどうか。

- 展示室と県民ギャラリーを分けてつくろうとしていることに評価と期待をしている。県民ギャラリーは展示室のような過度に温湿度管理ができる仕様でなくてよいので、利用料が高くならないようにしてほしい。
- 城山公園内には長野市の野外彫刻が 16 作品ある。城山公園の再整備にあたってはこれらの野外彫刻を多くの方に楽しんでもらえるようにしていきたい。この辺も踏まえて検討してほしい。
- 利用者の声に柔軟に対応してくれる建築家を選んでほしい。
- アートライブラリーやアトリエは、利用者にとって使い勝手のよいものにしてほしい。
- 常設展示室は、収蔵品を活かす使い方をしてほしい。
- 県下にはたくさん美術館があるが、同じような部屋があっても口スがある。各美術館の特性を考えながら新美術館に必要な施設を考えてほしい。
- 善光寺と美術館の回遊性を高める方策を考えてほしい。

【運営関連等】

- 人材が大切。正規職員を増やすことを考えたほうがよい。
- 御開帳のボランティアに参加した際、来訪者の反応から美術館のPRが足りないと感じた。美術館と来館者をつなぐ広報専門の職員を配置したらどうか。
- 美術館運営のために、ボランティアグループを立ち上げたらどうか。
- 県内美術館との関係は勿論だが、世界水準の美術作品の展示を考える上で、日本全国の県立や国立美術館との連携を図りながら、少ない予算を有効に使うことが重要である。
- 集客のためには、案内表示や交通網を含めて考えたほうがよい。
- 旅行会社から、長野市には善光寺しかないと言われたことがある。善光寺と信濃美術館だけでは弱い。県内の美術館との巡回展や展覧会の共同企画もよいが、長野市近郊の観光スポットとの連携にも取り組んだほうが、旅行会社が商品を企画しやすいのではないかと。
- 館長予定者の松本さんの話を直接聞くことができ、新しい美術館を応援したいと思えたし、期待する気持ちになった。

(以上)